

彼は立って、群れを養う

ミカ書 5 : 1 - 3

ルカによる福音書 1 : 39 - 45



司祭 ヨハネ 井田 泉

2024年12月22日

降臨節第4主日

京都聖三一教会にて

およそ 15 歳のマリアは、だれにも言えない秘密を心に抱えていました。しばらく前、彼女は、とても考えられないことを経験しました。天使がマリアに現れて言ったのです。

「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む。だから、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる。」

ルカ 1:35

「あなたは神の子を産む」と言われたのです。

マリアは決意して天使の言葉を受け入れました。神さまを信頼して、その救いの業に自分をゆだねました。不思議な力と喜びと平安に包まれました。けれども、人としては不安と恐怖が時として襲ってきます。このようなことを婚約者ヨセフに話したとしても、とても信じてもらえないかもしれません。

自分ひとりの胸にこれを納めておくには、あまりに重く大きなことでした。このことを話せるとしたらだれか。ただひとり思い浮かびます。エリサベト。マリアは決意しました。親類のエリサベトを訪ねてこのことを話そう。あのとき天使は、もう年が進んでいるエリサベトが子どもを身ごもって6ヵ月になる、と言っていた。

マリアは決意し、立ち上がって出かけました。それが今日の福音書です。

「そのころ、マリアは出かけて、急いで山里に向かい、ユダの町に行った。」ルカ 1:39

北の地ガリラヤのナザレから、行き先は南のユダの山里の町です。片道3日はかかるでしょうか。「急いで」という言葉に、マリアの気持ちと決意が示されています。

「神さま、あなたを信じます。わたしを助けてください。エリサベトが、わたしが話すことを受け入れてくれますように」

ずっと祈りながら道を急いだに違いありません。そして、とうとう着きました。

「そして、ザカリアの家に入ってエリサベトに挨拶した。マリアの挨拶をエリサベトが聞いたとき、その胎内の子がおどった。エリサベトは聖霊に満たされて、声高らかに言った。

『あなたは女の中で祝福された方です。胎内のお子さまも祝福されています。』」ルカ 1:40-41

驚きと安心、喜びと感謝が湧き起こります。マリアの予想をはるかに超えて、エリサベトはすべてを理解してくれました。一緒に喜んでくれました。これはほんとうの信仰の出会いです。困難や危険を抱えつつも神さまを本気で信じる者どうしの出会い。神さまの御心を行おうと決意した者どうしの出会いです。お互いに慰められます。励まされます。勇気が湧いてきます。マリアとエリサベト。これからこの二人は、たとえ生活する場所が違って、祈りあい、支えあって、神さまのために生きて行くのです。

この二人の出会いはとても大切な出来事なので、これを記念する日が教会暦の中に定められました。「おとめ聖マリヤの訪問」の祝日です。祈祷書の教会暦の小祝日を見ると、5月31日がこの日です（13頁）。バッハはこの祝日のために美しい音楽を作りました。それが教会カンタータ 147 番「心と口と行いと生活で」（全 10 曲）で、その最後の曲が有名な「主よ、人の望みの喜びよ」の名で広く知られるようになったコラールです。

ところで MARIA がエリサベトと出会ったとき、何が起こったのでしょうか。こう言われています。

「MARIA の挨拶をエリサベトが聞いたとき、その胎内の子がおどった。」 1:41

エリサベトの胎内の子——後の洗礼者ヨハネです——が喜び躍った。それでエリサベトは MARIA に起こったことを理解しました。エリサベトは、胎内の子ヨハネと一緒に、MARIA と出会った。と同時に、MARIA の胎内の子イエスと出会ったのです。胎内のイエスも、エリサベトとその胎内の子、ヨハネに出会った。二人の女性の出会いは、胎内の二人の子を合わせて、四人の出会いでもあったのです。喜びが溢れました。

「エリサベトは聖霊に満たされて、声高らかに言った。『あなたは女の中で祝福された方です。胎内のお子さまも祝福されています。』」 1:41-42

「聖霊に満たされて」

これを大切に心にとめましょう。聖霊がエリサベトにわからせた。マリアが神の子を宿していることを、聖霊がエリサベトにわからせ悟らせた。喜びが溢れました。

聖霊の働き、聖霊の充満が、エリサベトに起こったのです。

思い返せば、マリア自身が、天使のお告げを聞いたとき、こう聞かされました。

「聖霊があなたに^{くだ}降り、いと高き方の力があなたを包む」1:35

聖霊がマリアを包み、聖霊がエリサベトを喜びに満たした。その聖霊はわたしたちにも注がれて、わたしたちの信仰の目を開くのです。聖霊によって目を開かれたわたしたちは、マリアの胎内の子がわたしたちにとってどのような存在であるかを知る。この方イエス・キリストは、わたしたちの牧者、羊飼い！わたしたちにも喜びが起こります。

ところで皆さんは礼拝の始まる前、祈られると思います。そのとき、聖霊を求めて祈ってほしい。聖霊が、わたしたちを神さまと出会わせます。聖霊が、わたしたちの祈りを真心からのものとしめます。聖霊が、聖書から神の声を聞かせてくださいます。聖霊が、いただくパンとぶどう酒を、主イエスの命としてわたしたちの体と心のうちに浸透させます。聖霊を求めて祈ってください。

さて、今日の旧約聖書・ミカ書に何とされていたかを聞きましょう。

「エフラタのベツレヘムよ／お前はユダの氏族の中でいと小さき者。お前の中から、わたしのために／イスラエルを治める者が出る。」5:1

これは預言者ミカが、主イエス誕生より 700 年以上も前に語った言葉です。ベツレヘムからその方が出る。

「彼は立って、群れを養う／主の力、神である主の御名の威厳をもって。彼らは安らかに住まう。今や、彼は大いなる者となり／その力が地の果てに及ぶからだ。」5:3

「彼は立って、群れを養う」

わたしたちを守り、養い、導く牧者となる方が来られる。その方のもとで、わたしたちは安らかに住まう。イエス・キリストの誕生は、このミカの預言の実現です。

今の世界にはあまりに悩みが多い。わたし個人にも心配があり、教会にも悩みがあり、また日本の社会にも世界にも、痛ましいことが満ちています。気持ちがあえて、希望を失いそうです。けれども聖霊が、わたしたちの心の目を開いて主イエスを仰がせる。聖霊が、聖書の言葉をわたしたちに宿させます。

「彼は立って、群れを養う」

「彼は大いなる者となり／その力が地の果てに及ぶ」

この方がわたしたちの傍らに立たれる。この方がわたしたちを養われる。この方イエス・キリストが、わたしたちを守り、養い、導かれる。この方の力が地の果てに及ぶ。正義と平和が、真実と愛が世界を覆う。この方が希望です。

祈ります。

神さま、あなたはわたしたちのために、牧者なる主イエスを与えてくださいました。どうかわたしたちに聖霊を注ぎ、牧者なる救い主の姿を見させてください。み言葉によって希望と力をお与えください。この世界を神の国に変えていかれる主に従わせてください。アーメン